た観念ではないかと言っているが、「相反するものの一致」は、ある意味で本書の中で語られているカトリシズムの本質としての「対立するものの包括」につながる。

マリア伝承を支え、これを美化し聖化していったものは、初期カトリシズムにおける教団の中での「たえざる欠如の自覚であり、その欠如した要素が対立の契機とならないように、それを自らのうちにとりこもうとする知恵」であった。著者よれば、福音書記者ルカもそのような自覚と知恵にうながされつつ、独特な文学的表現を通して普遍性の実現を目ざしたのであり、たとえ「言葉による表現が幾多の矛盾を含んでいようとも、この方向は確実に広い社会層の支持を獲得していった」のである。

マリア崇拜が今日まで根強い力をもっているのは、そこに「救い」を感じる人びとがいるからである。特定の女性に対する崇拜、特に母なる女性に対する憧憬を生み出してきた動機は、そして、ルカ福音書における処女懐胎モチーフの導入は、何らかの護教的動機に基づくとしても、単純に荘厳なメシア誕生物語の初めなどではなく、あるいは思想史的対決や派閥間の抗争などでもなく、「もっとどろどろした人間の欲望や恥じらい」であった可能性があると言う。（だが、その「どろどろした人間の欲望や恥じらい」が何かについては論じられていない。）

キリスト教の内と外の世界をさらに豊かな議論へと誘うであろう、刺激的な作品である。

『藤本勝次先生 加藤一朗先生 古稀記念中近東文化史論叢』

同記念会編（関西大学文学部史学地理学科合同研究室内）、

1992年、3月、364頁+11

花 田 宇 秋^{*}
HANADA Nariaki

本書は、関西大学で永年にわたり教鞭をとられる傍、我が国の学界の草分け的存在として活躍されてこられたイスラム史の藤本勝次氏と古代エジプト史の加藤一朗氏の古稀、同大学の定年退任を記念して編まれた論文集である。執筆者は、同大学で両氏に学んだ人、そして友人・後輩諸氏である。いずれも今日の我が国のオリエント学・イスラム学を担っている新進・中堅・重鎮であり、そのことが本書の水準を一層高いものになっている。

* 明治学院大学一般教育部教授
Professor, Meiji Gakuin University

古代オリエント史とイスラム以降の西アジア史の連続的・統一的考究が叫ばれて久しい。その意味で斯学の先達の業績を記念する諸論文が本書に収められているのは、今後の我が国の西アジア・北アフリカ学の方角性を示唆するようでもある。以下目次を記すことで紹介にかえたい。

目 次

序	関西大学学長 大西昭男	
まえがき	富沢霊岸	
藤本・加藤両先生 年譜・業績目録		1
東洋史編		
カーシュガリー『トルコ語辞典』に見える農業関係の語彙……………	間野英二……………	1
1915年秋のイラン政変について……………	吉井武史……………	25
マムルーク朝時代のカイロのマンスール病院について		
——ワクフ設定文書の再検討を通じて——……………	菊池忠純……………	47
第一次十字軍のアンティオキア攻略——同時代の記録から……………	梅田輝世……………	69
フットワー勸告の規定——バグダーディーの議論を中心に——……………	愛宕あもり……………	89
アラビア語方言特性名の検証……………	池田 修……………	119
イブン＝ハルドゥーンの見たエジプト司法界……………	森本公誠……………	135
西洋史編		
エンエンタルジ時代の家畜飼育関係記録とその特色について		
——エンシ所有の優越性を中心主題として——……………	山本 茂……………	163
ウル第三王朝時代ギルスにおける耕地片・耕地ユニットの形状……………	前川和也……………	193
「二つの国」の統一とホルス名——第一王朝から第四王朝		
までの王のホルス名の政治的、宗教的背景について——……………	大島一穂……………	249
アクリス遺跡出土の模型船に関する一考察——船体と装具——……………	宮本純二……………	279
古代エジプト第11王朝の王統譜について……………	萩生田憲昭……………	307
古代エジプトの力の形象考——古王国時代資料にみる——……………	吹田 浩……………	337
あとがき	大庭 脩	
巻頭写真……………	藤本勝次・加藤一朗両先生近影	